



答 辞

日々、目に映る景色が春色に染まり、生き物が躍動し心躍る季節となりました。

本日は理事長先生、学長先生を始め、諸先生方、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、私たち卒業生のためにこのような心温まる式典を挙げてくださったことに、卒業生一同心より御礼申し上げます。皆様からいただいた祝福と励ましのお言葉を胸に、新しく始まる人生の第一歩を、大きな夢と希望を持って踏み出そうと決意しました。

2年前の春、私たちはまだ名前を知らない仲間と共に、これから始まる新たな学生生活に大きな期待と不安を抱きながら入学式を迎えました。入学当初は高校までとの環境とは異なり、目の前にある景色全てが新鮮に感じられ不安や戸惑いを感じることもありました。しかし、学生一人ひとりの個性に寄り添い温かな指導をしてくださる先生方や、保育者になるという同じ志を持った仲間たちとの出会いにより、充実した短大生活を送ることができました。

この作新学院大学女子短期大学部で過ごした2年間では、保育者になるためのかけがえのない学びを得ると同時に、仲間たちと多くの貴重な経験を積む中で人間性を磨くことができたと感じます。日々の講義では、子ども理解や保護者への支援、障がい児保育などの専門的な知識や、ピアノや読み聞かせなどの授業を通して実践的な技術を身につけることができました。また、学外オリエンテーションやグループワークキャンプといった数多くの行事やサークル活動を通して様々な経験をすることができ、全て印象的な思い出となりました。

私にとって特に印象深い経験は、実習です。実際に子どもや保育者、保護者の方と関わり、現場でしか学ぶことのできない子どもの年齢や月齢、発達を理解し適切な声掛けや援助をすることの重要性や保育者の職務について理解し、短大での学びをより深めることができました。保育を行ってみると、子どもの想定外の動きや発言、自分の言葉の引き出しの少なさに戸惑いや悩みがありましたが、保育者の助言やアドバイスのもと行動していくことで次第に適切な対応をすることができました。私は実習を通して、保育者になりたいという思いがより一層強くなりました。

2年間という限られた短大生活の中で大切な仲間と出会うことができました。一緒に過ごす時間の中で、同じ目標に向かってみんなで協力して取り組むことで、絆を深めることができたのです。短大での生活を思い返してみると、嬉しかったことや楽しかったことばかり思い浮かびます。時に辛いことや大変と感じることがありましたが、その度に気持ちを共有し、共に励まし合えた友人に心から感謝しています。毎日学校に通い、みんなと会えることが当たり前ではないからこそ友人たちと過ごした短大生活はかけがえのないものとなりました。そんなみんなと、今日で会えなくなってしまうと思うと悲しい気持ちでいっぱいです。

そして、卒業を迎えたこの日まで、私たちを支え、見守り続けてくれた家族にも心から感謝しています。今の私たちがいるのは、家族が1番近くで夢を応援し、味方になってくれていたからです。今までたくさん迷惑をかけましたが、これからは一社会人として自覚と責任を持ち、立派に生きていこうと思います。今まで本当にありがとうございました。

2年間の学生生活を振り返り、自分一人の力ではなく、多くの方々に支えられ、この日を迎えることができたのだと感じます。私たち学生に親身になって寄り添い、ご指導してくださった先生方に心から感謝しています。四月からは新しい環境でそれぞれの道を歩むことになり、これからが私たちにとって本当のスタートです。辛いことや挫折そうになることもあると思いますが、今まで私たちを支えてくださった方への感謝の気持ちを忘れずに、学生生活の日々を自信に変え、自分らしく歩んでいこうと思います。最後になりましたが、作新学院大学女子短期大学部のこれからのますますのご発展と、理事長先生、学長先生を始め、教職員の皆様のご健康、在学生の皆様の更なる飛躍を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和七年三月十六日
作新学院大学女子短期大学部
卒業生代表 野中 花夏